

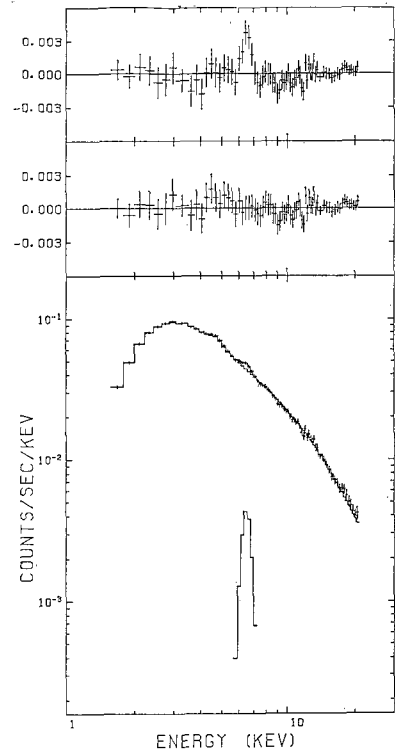
## —天文学最前線—

## 白鳥座 X-1 からの鉄輝線

白鳥座 X-1 の X 線星は最も確からしいブラックホール候補星である。その X 線を日本の天文衛星「てんま」に搭載されたガス蛍光比例計数管で観測することにより、鉄輝線を検出することができた。欧州の天文衛星「EXOSAT」も、同じく白鳥座 X-1 からの鉄輝線の検出を報告している (Barr et al. 1985, M.N.R.A.S., 216, 65) が、彼らの報告では、輝線の中心エネルギーが有意に鉄輝線として期待される位置からずれており、また、約 120 eV の大きな等価幅を示していた。しかし、我々のより精度の高い観測の結果 (Kitamoto et al. 1990, P.A.S.J., 42, 85), 輝線の中心エネルギーは、鉄輝線として矛盾なく、また、等価幅も約 60~80 eV の小さな値を示すことが明かとなった。また、鉄輝線の等価幅が、白鳥座 X-1 の連星系の公転位相によって、変化しているらしいことも分った。「てんま」で観測された白鳥座 X-1 のエネルギースペクトルを図に示す。

北本俊二 (阪大理)

白鳥座 X-1 のエネルギースペクトル。下段は、クロス印▶でデータを、ヒストグラムで最もよくあうモデル関数 (パワーロー型の連続成分と、ガウス型の輝線) を示す。上段はモデル関数としてパワーロー型だけを用いた場合のデータのモデル関数からのずれで、中段は、モデル関数として、更にガウス型の輝線を入れた場合のずれを示す。




---

**学会だより**


---

**日本学術会議天文学研究連絡委員会委員選挙の公示**

日本学術会議の第14期は来る7月21日に満了し、22日から第15期に入ります。それに対応して、今期の天文学研究連絡委員会(以下、天文研連)は9月19日に終了します。このため、去る4月5日、杉本大一郎天文研連委員長より小暮理事長(当時)宛に、新委員候補者の推薦方の依頼がありました。委員定数は22名で、このうち1名は指名委員(学術会議会員)です。そこで以下のような要領で特別会員を対象にした選挙を行い、上位得票者30名程度を天文研連委員候補者として天文研連委員長に推薦致します。

有権者: 日本天文学会特別会員

被選挙権者: 国内外を問わず資格制限はない

選挙方法: 20名連記, 無記名

投票期間: 6月21日~7月10日(7月10日必着)  
 注意: 天文研連委員の在任期間は、第13期以降通じて3任期までとなっています。このことを考慮して、天文研連から日本学術会議に新委員を推薦する段階で、若干の調整が行われることをご了承下さい。この調整には、本会理事長も加わる予定になっています。なお、投票用紙と一緒に発送します特別会員名簿の中で、氏名の前の○内の数字は13期以降の天文研連委員在任回数を表しています。

1991年6月20日

庶務理事